

学校クラスター発生に伴う県教育委員会の取組

学校クラスターの再発を防ぐため、これまでの予防対策を再度確認するとともに、感染症クラスター対策の専門家より、1月に発生した2校の事例に関する指導助言を参考に、以下の点について感染予防対策の強化を図る。

《専門家からの助言の概要》

- 1 指導助言者 東北大学大学院医学系研究科微生物学分野 助教 神垣 太郎 先生
(新型コロナウイルス厚生労働省対策推進本部 クラスター対策班)
- 2 対 象 令和3年1月にクラスターが発生した県立高等学校(2校)
- 3 概 要
 - ・これまでのクラス内での感染対策は十分機能していたと考えられる。
 - ・その一方、感染対策が十分でない点が複数あり、今後の対策強化が重要である。
 - ・部活動の前後、昼食や休み時間、トレーニングにおける感染対策が不十分である。

《更なる感染予防対策取組》 ※学校における具体的な取組として記載している。

全体の場面での取組

- ・生徒が感染症予防に主体的に向き合い、集団で取組む体制づくり
- ・チェックリストを用いた感染予防対策の定期的な再点検
- ・昼食や部活動などマスクを外す場面等への教職員による直接指導
- ・「黙食」「黙トレ」等の啓発ポスターの掲示
- ・生徒や保護者に対する感染予防対策徹底の呼びかけ

部活動場面での取組

- ・体調不良時は活動に参加しない等、休むことのできる環境づくり
- ・体調不良者の発生を迅速に情報共有する体制づくり
- ・客観的な身体症状等の健康チェックや体温計測等の確認
- ・トレーニング室における感染予防の再徹底